

トカラ列島だけでなく、長野県北部でも群発地震活動

先週号では、トカラ列島の群発地震活動についてお伝えしましたが、現在、長野県北部でも少しまとまった地震が発生しています(4月13日から開始と考えられる)。

長野県では、これまでも前震を伴う地震が比較的によく発生していました。最近の例としては、2014年1月に発生した「長野県神城断層地震」(マグニチュード6.7)では顕著な前震が観測されていました。

さらに4月16日付けのテレビ朝日のニュースでは、「忘れられた震災」と呼ばれている東日本大震災の翌日に発生した長野県栄村の地震(マグニチュード6.7)でも、京都大学のグループが特殊な解析を行った結果、長野県北部の断層に沿って前震が震源付近に移動していく傾向がみられたということです。

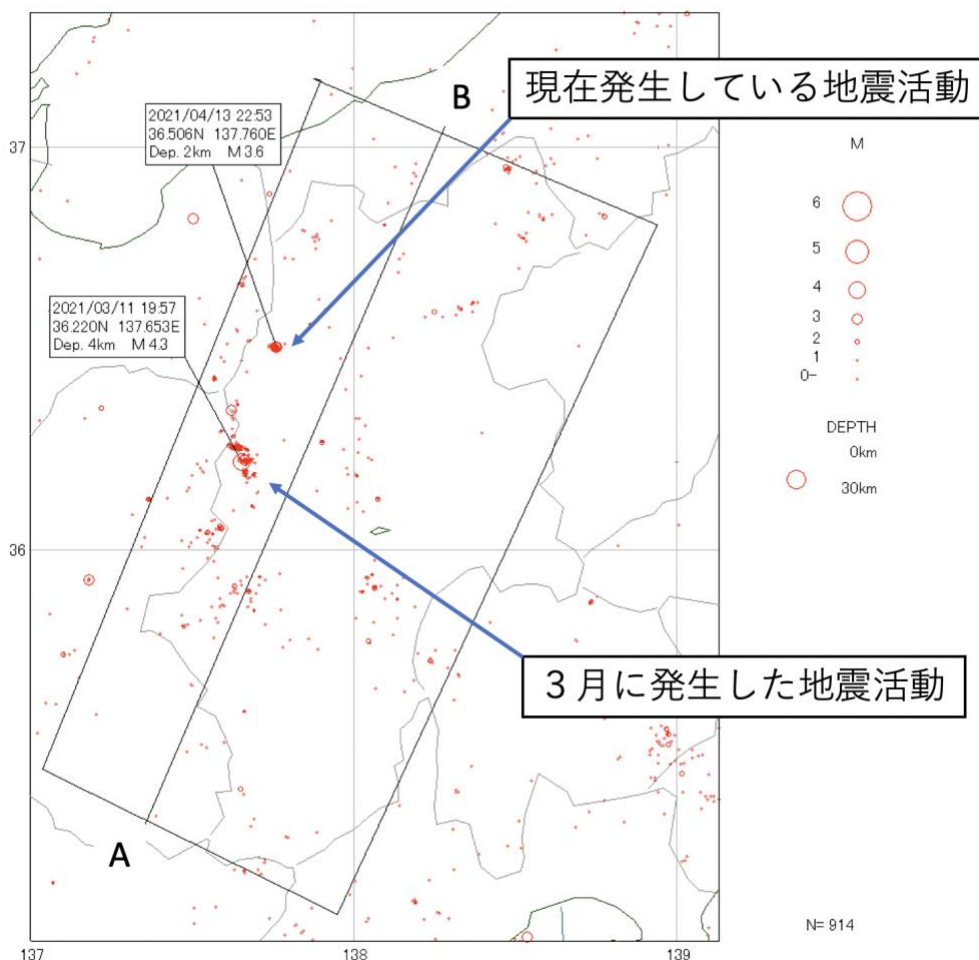
<https://news.yahoo.co.jp/articles/4a37b3729469b4de64aa477c7b4ab7b00e2c9f6b>

4月14日は熊本地震から丸5年が経過し、テレビでは熊本の復興状況などを取り上げた番組も放送されました。この熊本地震は現在では14日の地震が前震、16日の地震が本震と言われています。

実は日本では、前震を伴う地震というのは全体の1割ほどと言われており、前震—本震型の地震は比較的珍しいとされているのです。その中で前震を伴う地震が比較的多く発生しているのが、今回取り上げる長野県地域、あるいは茨城県沖の地域なのです。

次にお示しする図は2021年3月1日から4月17日までの長野県を中心とした地域の地震活動です。4月13日から少しまとまった地震が発生しました。

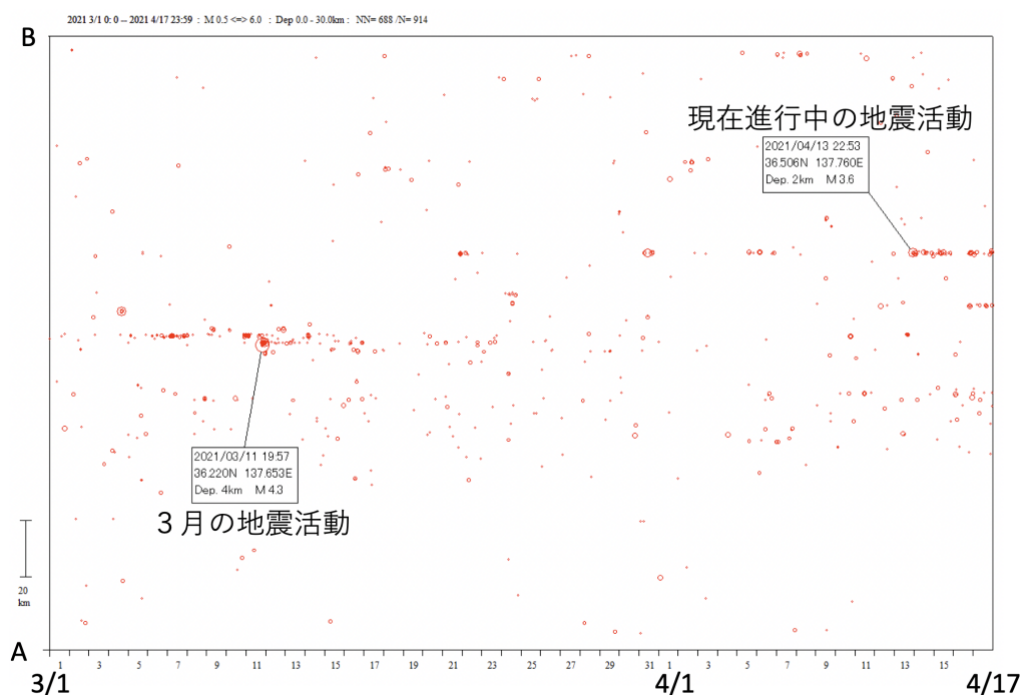
今年3月1日から4月17日までの地震活動





次にお示しする図は前ページの図の A-B の断面に投影した地震活動の時間変化です。

A-B断面に投影した地震発生の時系列変化（2021.3.1－4.17）



この図では縦軸が A—B 断面の距離、横軸が日付となっています。地震が横に並んでいるという事は、同じ地域で地震が連続して発生していることを意味します。規模は小さいですが、3月の地震活動もマグニチュード1から2クラスの小さな地震が3月3日ごろから発生しだし、3月11日にマグニチュード4.3というこの一連の地震活動の中の“本震”が発生したと解釈できます。

もう少し長野県北部の地震活動については、注意を払う必要があると考えています。

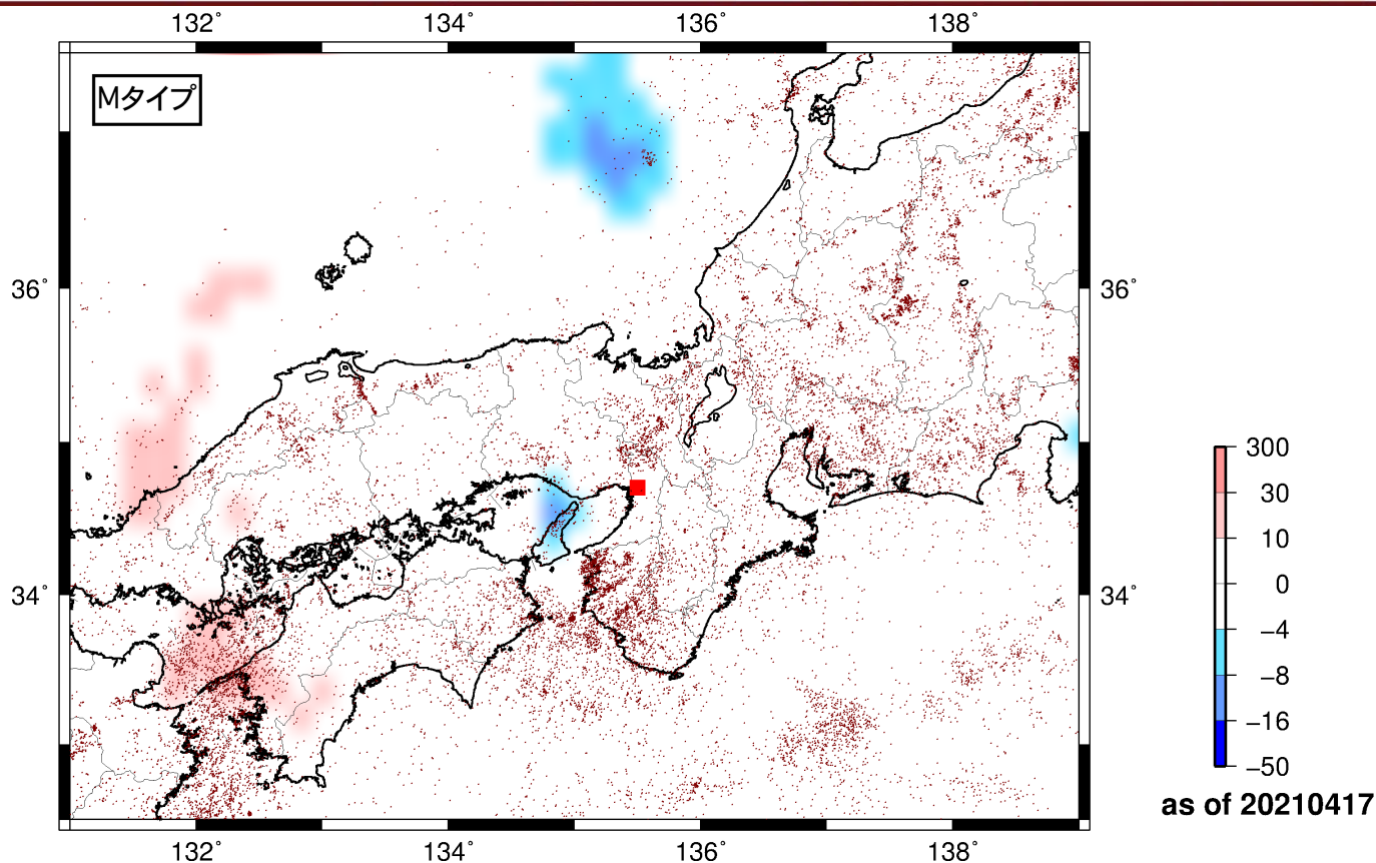
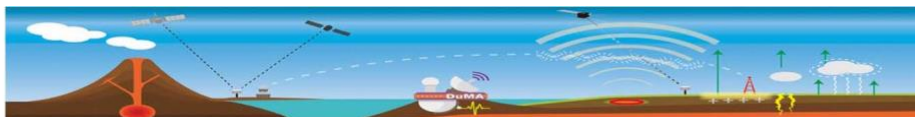
中部・近畿・中国・四国地方の地下天気図®

3月8日のニュースレターに引き続き、中部地方から中国・四国地方にかけての地下天気図解析結果です。この地域の地下天気図解析では、東日本大震災の影響をあまり受けていない事から、過去20年ほどの地震データを使っています。

現時点では L タイプも M タイプもほとんど同じパターンを示しています。次のページに4月17日時点の M タイプ地下天気図をお示します。

また今回お示しする地域の地下天気図はここ1年ほどほとんど大きな変動が無く、大きな静穏化の異常が観測されていない事もわかりました。

3月8日のニュースレターも併せてご覧頂ければと思います。



4月17日時点のMタイプ地下天気図、図中の■は大阪を示す